

待降節・アドベントⅠ礼拝

2023年12月3日（日）

題 「神のもとから来たイエス」

テキスト：ヨハネによる福音書7章25～31節

皆さま、おはようございます。

ローソクに1本火が灯り、教会の暦では、今日からアドベント・待降節に入りました。アドベントは、イエス・キリストの誕生を待ち臨みつつすごす時です。アドベントという言葉は、「到来」という意味のラテン語で「待降節」と訳されます。クリスマス前の4週間、心の準備をする時で、またキリストが再び来られること（再臨）を、喜びをもって、待望する季節にもあたります。

再臨とは理解しにくい言葉ですが、イエス・キリストが再び来られることを意味する言葉で、古代のキリスト者たちは、神さまの救いの約束とその働きが世界と宇宙全体に完全に実現する時であると信じて、その日を待ち望みつつ希望に生きたのです。終末とか再臨という言葉は科学を中心とするまた現実を重視する現代人にとっては理解しにくいと思われそうですが、終末信仰、また再臨信仰は、「主イエスはわたしたちと共にいてくださる」また「わたしたちは主イエスと共にいる」という強い希望を含む約束の現実なのです。初代のキリスト者たちは「マラナ タ」（主よ 来てください。）との祈りを大切にしていたのです。

実はこのアドベントは教会の暦では1年の始まりにあたります。11月30日に最も近い日曜日から始まります。新しい年もこのクリスマスの光の中で迎えることとなるのです。クリスマスの期間は1月6日まで続きますが、この日はエピファニー（公現日）と呼ばれます。この日は、東方の3人の博士がお生まれになったイエスさまを訪問した日とされています。

さて、今日の聖書の箇所には、イエスが神の都と呼ばれたいたエルサレムの町に来た時のことが記されています。

「◆この人はメシアか」と小見出しにはあります。

25: さて、エルサレムの人々の中には次のように言う者たちがいた。

「これは、人々が殺そうとねらっている者ではないか。」と。

この時には、イエスを評判が民衆に広がっていることを面白く思っていなかったエルサレムの権力者の中には、チャンスが来たらイエスを捕えようとの思いが生まれていたようです。ですから民の中には、

「26: あんなに公然と話しているのに、何も言われぬ。議員たちは、この人がメシアだということを、本当に認めたのではなからうか。」との声が広まって来ていたのです。エルサレムの町の政治を司る議員たち、主にサドカイ派と呼ばれるグループの人たちでした。わたしたちは、この人がどこの出身かを知っている。メシアが来られるときは、どこから来られるのか、だれも知らないはずだ。」これは多くの民衆は、イエスがユダヤの北に位置するガリラヤ地方のナザレの町の出身であることを知っていたということです。メシアとは、ヘブライ語で「油注がれた者」という意味で王や預言者たちが油を注がれたのです。そして、救い主、救済者を指すようになったのです。

エルサレムの神殿の境内で教えていたイエスは、大声で言われました。「あなたたちはわたしのことを知っており、また、どこの出身かも知っている。わたしは自分勝手に来たのではない。わたしをお遣わしになった方は真実であるが、あなたたちはその方知らない。」と。

「知っている」という言葉が沢山出ていますが、ヨハネによる福音書ではこの「知っている」という言葉は重要で大切な言葉です。神の子イエスと神との親密な深い関係を表す言葉なのです。また「神は真実である。」との言葉も重要でわたしたちも覚えて置きたいです。

イエスは、はっきりと29節で、

「29: わたしはその方を知っている。わたしはその方のもとから来た者であり、その方がわたしをお遣わしになったのである。」といわば宣言のように言われました。この言葉を残念ながらユダヤの権力者たちは理解できなかったのです。むしろこの言葉に反感を持ち、強い怒りを感じてイエスを逮捕し遂には、イエスを十字架につけたのです。

2000年前のユダヤの人々は、メシア・救い主がやがて来ることを聞かされ知っていたのです。救い主メシアが来る前には、昔に活躍した預言者のエリヤが先に来るとの信仰もあったようです。

そして、「30: 人々はイエスを捕らえようとしたが、手をかける者はいなかった。イエスの時はまだ来ていなかったからである。」すべてのことには、神の定められた時があるのです。福音書記者のヨハネは「イエスの時はまだ来ていなかったからである。」と意味深いことばで告げています。

31: しかし、群衆の中にはイエスを信じる者が大勢いて、「メシアが来られても、この人よりも多くのしるしをなさるだらうか」と言った。この「メシアが来られても、この人よりも多くのしるしをなさるだらうか」との民衆のことばが正しかったことが、イエスの地上での言葉と愛の行い、そし

てこの後、イエスの十字に至る道、十字架の出来事、そしてイエスの復活の出来事によって証明されたのです。

わたしは、今日の聖書の個所から救い主を待ち望んでいた人たちのことを思う時、思い出した物語があります。以前、お話ししたことはあるのですが、わたしが小学生の頃に、国語の教科書で読んだ文学者ホーソンの小説「人面の大岩」という話を思い出すのです。

あらすじですが、それはある深い谷間のはずれの村に、自然がいとも見事に岩肌を削り取り人間の顔そっくりの大きな岩があったのです。

そして、

その村には昔からの言い伝えがあったのです。いつの日か、その村から人々に尊敬されるりっぱな人が現れる、と。村の少年アーネストはこの言い伝えをいつも心にとめ、その日の仕事が終わると長い時間じっとこの岩を見つめいました。そしてその岩の顔の穏やかさに一人心を和まされていたのです。少年アーネストが成長するにつれてその村の出身の立派な人たちが村に戻って来たのです。一人は大富豪の資産家、また一人は大政治家、また手柄をたてた軍人などなど。でもアーネストには、その言葉や立ち振るまいから、その村の言い伝えの人ではないように思えたのです。

やがて、その村で育ったアーネストは青年から大人になり、老人になりました。ある時、アーネストが大岩を見に来た人々にその村の言い伝えを語っていた時のこと、アーネストの夕日に照らされる顔を見て、ある子どもが「岩の顔にそっくりだ！」と叫んだのです。神は真実な方なのです。ですから真実な心と行いは神に届き、もっともふさわしい形で聞かれ実現するのだと信じます。

皆さん、今日からアドベントです。わたしたち救い主イエス・キリストの誕生を待ち望みながらこの期間を大切に過ごし、喜びのクリスマスを共に迎えたいと願います。神さまの恵を思いつつ主の聖餐に預かりましょう。

皆様の上に主の平安を祈ります。